

平成29年度第2回安城市総合教育会議議事録

日 時 平成30年1月18日(木) 午後2時から午後3時20分
場 所 アンフォーレ 図書館 グループ学習室5・6
出 席 者 市 長 神谷 学

教育委員会 加藤 滋伸 委員長
近藤 倉生 委員長職務代理者
船尾 恭代 委 員
伊奈 希 委 員
杉山 春記 教育長

出席した職員 永田博充 企画部長
鳥居 純 行革・政策監
鈴木公伸 子育て健康部長
近藤芳永 教育振興部長
大見 智 生涯学習部長
永井教彦 子ども課長
神谷 徹 総務課長
上原就久 学校教育課長
深谷英衛 企画情報課課長補佐
太田美鈴 子ども課課長補佐
原田浩至 子ども課課長補佐
筒井良廣 総務課課長補佐
吉本 敦 学校教育課課長補佐
宇波聖香 企画情報課主事

傍 聴 者 なし

開 会 午後2時

日 程

第1 開会

第2 市民憲章唱和

(市民憲章 唱和)

第3 あいさつ(要旨)

神谷市長：本日の議題は大きく二つ。一つ目の議題は、安城教育充実プラン、二つ目は幼児教育行政の現状と今後のあり方について。限られた時間だが、貴重な情報を交換したい。

教育委員長：安城市は健康で幸せなまちづくりをしているが、このアンフォーレでは健全な学びのまちづくり、賢学のまちづくりが出来るのではないか。

教育委員会が所管するものは、学校教育だけでなく生涯教育もある。ここが学びの拠点としてうまく機能していくことを私たちも楽しみにしている。今日は第1回目の時に協議したものが少し形となって出てくるかと思っていますし、良い話し合いが出来れば良いと思う。

第4 議題

議題(1)「安城教育充実プランについて」

学校教育課長説明する。

教育長：今回テーマを「安城教育充実プラン」ということにしている。前回の総合教育会議で教員の多忙化解消について議論し、本来なら多忙化解消プランとすべきところをあえて充実プランという言葉を使っている。これは、教員の多忙化解消のみに視点をあてると、教員の勤務条件や勤務環境の整備のみが切り口となってしまう可能性があり、それでは不十分ではないかという懸念があったため、あくまでも切り口を安城の子どもにとってという形で見直しを決意した。したがって、多忙化解消という観点からいけば削っていく方向を逆に増やす部分も出てきている。

神谷市長：先生方がこれまで忙しすぎて気が付かなかった点にも思いをはせていただいて、質の向上を図ってもらおうということだと受け止めた。

今日たまたま地元中学校から中学校だよりも郵送で届いていた。今までは教頭が持って来ていた。日常業務の中で手を抜ける部分は抜いていけばいいと思う。そういうところからどんどん変えていけるといい。

先日、平成30年度の当初予算の編成が終わった。自然教室の看護師配置、緊急時の生徒搬送体制の確保、ALTの確保などを採択した。採択した分、市の予算は増額になるが、そのことによって先生たちの気持ちに余裕が生まれるならば、価値のある投資だと思う。

もう一つ、部活動に関しても、部活動指導員にお越しいただくことでどれくらい先生の仕事量が軽減できるかモデル校を指定してやってみたいということだったので、それも対応する。

連携を取りながらやっていきたい。

教育委員長：第1回の議論の後、事務局がすぐに検討委員会を立ち上げて動いたのはよかった。それに対して、市長が予算付けをしてくれたのもありがたい。

課題は出たが動けないという現状が多い中で、今が改革の時という意識をしていただいた。教員もそう思ってくれるといいなと思う。

神谷市長：安城はたまたま健全財政が堅持できているので、こういう手当てが

できる。特に、ALTについては必要なものだが、安城の先生の多忙化は解消できても、他市はどうか、健全財政を維持している市町村ばかりではないので、他のところとすごく差が出来てしまうという懸念はあった。ただ、私は安城市の市長であり、安城の先生の多忙化解消を図るということを考え踏み切った。安城でいい成果が出れば周辺市もやらざるを得なくなり、いい波及効果が生まれる。安城が第一歩を踏み出すという思いでいる。

職務代理者：このプランは本当によく練られている。第一回の会議の机上の成果を今度実践の成果にすることになる。教育のレベルが維持されるかもしくは上がって、なおかつ教職員たちの超過勤務が減少してきているということが証明されると、他の市も追随せざるをえなくなってくる。

神谷市長：何をもって効果があったとするかというのはなかなか難しい。とりあえず、職員アンケートとかで、わかるといいと思う。子どもの成績がどれだけ上がったかだと、長年かけないと評価が難しい。どう評価するのかを今のうちに考えていけるとよい。

船尾委員：この前会議でやったことが形になって、しかも予算までつくのは素晴らしい。お金があるからできたのもあるとは思いますが、子どものためなら知恵を絞って頑張れる体制が素晴らしい。安城の子どもはすごく幸せだと改めて思っている。中身に関してもすごく吟味されており、これがうまくいくと本当に多忙化が解消されるのではないか。

伊奈委員：保護者として私が願っていたことがいくつか取り込まれている内容でありがたい。先生が出張で子どもが自習のときには親としても不安なので、そういうところが少しずつ改善されて、子どもが先生と触れ合う時間がさらに増えればいい。

神谷市長：最近の新聞で給食費の未納を学校対応とするのではなくて、市長部に任せて、先生は給食費の回収から解放しましょうという記事が載っていた。先生たちは純然たる学校教育以外の雑務が多すぎて結構疲弊されてしまっているのかなと改めて感じた。したがって、そういう部分への気配りを周囲がしていけないといけないと感じる。

企画部長：安城市の場合、給食費の未納は翌年度に繰り越した分については総務課で対応を始めている。

教育振興部長：当該年度は保護者の面談のときに先生たちが、未納分があるのでもお願いしますということで対応する仕組みになっている。過去の分については教育委員会総務課で滞納整理を行っている。新聞などでも言われている教員の資格を持ってやる仕事でない部分を見直していく流れを取っている。

神谷市長：現状では、先生たちが給食費のために夜家庭訪問することはあるか。

学校教育課長：未納については担任も把握をされていて話をすることもあると思

う。

神谷市長：そういう業務から切り離してあげるだけでも、先生はずいぶん楽になると思う。私ども市長部局も出来る限りのお世話をさせていただくが、そのことによって市長部局が業務多忙になっても困るのでお互いバランスをみながら協力し合っていきたい。

教育長：これまで安城教育として良かれと思って何十年と続けてきたことを変えることは、それなりの労力、エネルギー、そして何よりも覚悟が必要だ。この取組みがどう影響していくかという評価・検証の部分を次年度取り組んでいきたい。

神谷市長：行き過ぎた部分があれば後戻りする可能性もあるが、ぜひ状況を的確に判断して改革を進めていってほしい。

議題（２）「幼児教育行政の現状と今後のあり方について」

子ども課長、子ども課課長補佐説明する。

神谷市長：人口が増えている安城市だが、子どもの総数は気持ち減少傾向であるにもかかわらず、保育が非常にタイトになってきている。それは、3，4，5歳は保育園あるいは幼稚園にほとんど入園するという前提で計画を立てられるが、0，1，2歳の低年齢児は、昔は各家庭で育てていたが、最近子どもを預けてお母さんが働きに出るという傾向が顕著になっている。そうすると例えば0歳だと子ども3人に対して保育士1人、1，2歳が6人に対して1人、それが3歳で20人、4歳で30人に対して1人ということで、年齢が低くなればなるほど保育士の密度を高くしていかなければいけないので、保育士と保育室を確保しなければいけない。だから子どもの数は減っていても、保育園は非常に厳しい状況になっている。安城市としても、毎年民間、公立と問わず保育園を1，2園ずつ建設し続けてきているが、それでも低年齢児保育の増加件数になかなか追いつかない。実は今までは待機児童ゼロでやってきたが、この10月1日時点で、0，1，2歳で16人発生してしまった。4月1日時点で待機児童は出来るだけなくそうとしている。年度途中では人の手当て等もできないので、あまり無理をして質の低い保育を提供するよりも、ちょっと不便をかけるが、春までお待ちいただく形に方針を切り替えた。この地域の商工業の方々と話をしていると、とにかく人手が足りないと言う。人手が足りないから働ける方は働いていただきたいが、どこまで保育の枠を増やしていけばいいのか非常に心配をしている。

伊奈委員：小学校にあがるとき、保育園と幼稚園の出身の子で差があるように

感じて一緒になることが不安になる方も多いのが現状だ。そこが解消される
と思っている。

市長：教育内容をそろえていくのは民間も含めてか。

子ども課長補佐：全ての幼児教育施設だ。

子ども課長：ただ、今回安城市で作る全体的な計画というのは民間の幼稚園に
は伝わらない。

神谷市長：参考にはするが、その通りに作らなければいけないということでは
ないということか。

子ども課長：要領に従わなければいけないが、市の計画とは整合していない。

例えば、園によって特色のあることをやる事が出来るという意味だ。

伊奈委員：幼稚園でひらがなをやるところもあって、小学校に上がった時点で
学力やコミュニケーション力に差があると聞かすが、そういうのがなくなれば
いい。

市長：公立幼稚園の希望者がかなり減っているが、民間幼稚園の希望者も徐々
に減少してきている。全体的に保育に流れてきているが、民間幼稚園として
は結局差別化を図らないと運営が厳しい。幼稚園でひらがなを習った子とそ
うでない子が小学校で一緒になって、ずっと能力的に頭一つ抜きんでた状態
が続くのか、それとも何学年か進んでいくと同じようになっていくのか。

学校教育課長：追跡調査をしていないのでわからない。

職務代理者：この改定の趣旨は幼児教育の共通化だから、保育園と幼稚園は所
轄官庁が違うが、一緒にやれということだ。全部一本化すれば問題にならない。
安城市も公立幼稚園を全部保育園化したほうが効率的だ。安城市で公立
幼稚園をやめてこども園にするとみなさんどんな反応をするのか。一考の余
地はある。

神谷市長：今後大きな流れとしてはそれを目指さなければいけないかもしれな
い。

子ども課長：どういった方法でこども園にしていくのかはまた議論を重ねない
といけませんが、利用しやすい形態に変えていくのが一番大事だと思っている。

船尾委員：幼保の一元化というのは、私が学生の頃から言われている。最近こ
ども園という考え方が出てきたが、二元化が三元化してしまったというイメ
ージがある。安城市の目指している、一本化をして同じ年齢の子どもが同じ
教育を受けるべきだという考え方はとてもいいことだと思う。ただそれを変
えるのは大変だろう。設備や親の意識の問題もあるだろうし、保育者側の意
識もあるだろうし、色々と難しいと思う。

また、市内公開保育に私は夫と参加している。夫に感想をきいたところ、知
性なり道徳性なりが、楽しい活動、遊びの中で自然に育っていることが素晴ら

しい。また先生方が子どもの現状に寄り添いながらその保育内容を決めているのは共感すると言っていた。私も見に行き行って本当にそう思っている。他の先生が西三河の先生はすごく優秀だと言っているのをよく聞くが、幼児教育に関しても安城市は優秀な方が多く、しかも熱心で子どもに寄り添う姿勢を持っているのが素晴らしい。公立の幼稚園は不人気かもしれないが、中で行われている教育は素敵だ。形式的には幼稚園になるのか保育園になるのか認定こども園になるのか色々あると思うが、とにかく子どもが幸せで、楽しい遊びの中で育つようなプランを立ててくれるといい。

神谷市長：最近の動きをみると、私立幼稚園や私立保育園が認定こども園化していく動きが顕著で、最終的に認定こども園になっていくのではないかと思っている。

子ども課長：全国の統計で、平成28年4月現在認定こども園が4000、今年平成29年で5000となり1年間で1,000くらい増えている状況だ。この流れは国も推奨しており、当分は続くと思っている。

神谷市長：安城市内でも増えているか。

子ども課長：来年度民間の保育園と幼稚園がこども園になる予定です。

神谷市長：二元化から三元化に見えるが、第三の道を内閣府が示し、ここに集約されていくのではないか。

船尾委員：集約されるといい。

神谷市長：市の幼稚園も認定こども園化の方向になるのではと思っている。

教育委員長：周辺市町の動きはわかるか。

子ども課長：幼保連携型で、県内だと岡崎の幼稚園3園が昨年こども園化しており、常滑、豊橋は1園ずつこども園化がある。近隣でも徐々に広がりつつある。どちらかというとなら私立のほうが先行してこども園化している。

教育委員長：市として全体的な計画は、いつごろまでに作る予定か。

子ども課長補佐：平成30年度には完成する予定だ。

教育委員長：幼稚園も、保育園も残るといふ形になるのか。

子ども課長補佐：計画としては同じものである。

教育委員長：名前のみ幼稚園、保育園が残るといふことか。

子ども課長補佐：はい。安城市の全体的な計画をという形で、カリキュラムは同じものだ。

教育委員長：幼稚園でありながら、0歳児も受け入れていくのか。

子ども課長補佐：いいえ、全体的な計画は0歳からですが、幼稚園は対象となる3歳からのカリキュラムになる。

教育委員長：名前が残ればそれしかできない。こども園化できればいいが。

職務代理者：保育士の数が不足する。

教育委員長：こども園化していくと、資格の問題が出てくる。認定こども園では、両方が必要で、保育士の確保が大変だということだが、見込みはあるのか。

子ども課課長補佐：安城市の公立園で働いているほとんどの者は両方の免許を持っている。認定こども園化が目指されるようになってから、片方の免許しか持っていない人に対して特例措置があり、安城市で働いている人も去年までに取った人が多く、どちらでも勤務できる資格だ。

教育委員長：保育士は幼稚園教諭も持っているし、幼稚園教諭は保育士資格を持っているということか。

子ども課課長補佐：臨時職員も含め、ほぼ両方持っている。

教育委員長：ではその心配はないわけだ。

神谷市長：ご年配の方々はこちらか片方ということもあるかもしれないが、今の若い方たちは両方持っている。

職務代理者：保育士の絶対数が少ない。保育士を増員増員としていると思うが、やはりマンパワーが足りない。だけど、安城市は確保してほしい。

神谷市長：安城市も厳しい。待機児童ゼロを堅持して、どんどん保育園の枠を増やしてきたので、今や1, 100人の市の職員の中で保育士が3分の1を占めている。私もちょっとびっくりした。そのくらい抱えていてもまだ足りない。

職務代理者：静岡県長泉町は、子育て支援がしっかりしており、すごく人気が高く、どんどん人が集中している。

神谷市長：安城も保育を充実させてそのことが魅力で若い人が入ってくるといいが、かなり厳しい。今、0, 1, 2歳児全体の保育が30%くらい。もしみんなが預けるともうお手上げの状態になってしまう。

船尾委員：働いているお母さんたちが、本当は家庭で育てたほうがいいのではないかという罪悪感を持ちながら働くのはおかしい。親子が接触する時間が短くても、質的に心が触れ合っていればそれはそれで構わないと思う。働きたい親もいるし、仕事をやめたくない親もいる。母親には子どもを育てる権利はあるが、義務ではないと思う。母親が一人で子育てするわけではなく、色んな大人たちが育てる、それが本来の社会的な営みというか子育てのあり方だと思う。一概に3歳までは母親が育てるというのは違う気がする。

神谷市長：貴重なご意見ありがとうございます。また保育の充実を図ってまいります。

第5 その他

第6 閉会 午後3時20分